
パパ

椎ありか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

パパ

【Nコード】

N0332I

【作者名】

椎ありか

【あらすじ】

パパ、僕はパパに逢いたいよ。パパはどこにいったの？ パパはいつも側にいるよね。ずっと僕とママのそばに・・・

あのね、パパ（前書き）

初めて小説を書かせていただきます。
雛岬杏といいます。

この度は「パパ」を読んでくださってありがとうございます。
ちなみに作者は小6で、しかも小学1年生目線で書いております。

あまり文章力には自信がありません。
こんなヘタの者ですが、最後まで読んでいただけると幸いです

あのね、パパ

僕にはパパがいらないんだ。

僕のパパは今すやすや眠ってるんだ。

ここにはいないけど、僕にはわかるんだ。

いつもパパは僕を見守ってくれてるんだって。

パパはね、すごく大きな人だったみたい。

そして優しくて子供が大好きで……。

僕のいところが言ってたんだ。

「琉のパパはね、すごく優しくて、よく私を可愛がってくれたんだよ。」

もうすぐ4年たつよね。

パパとばいばいしてから。

僕はパパがいらないから苗字が変わっちゃったんだ。

パパの知らないうちに、僕はランドセル背負って学校にも行ってるよ。

パパ……パパ……。

パパにも見てもらいたいな。

ねえ、いつかまた会えたら、一緒に遊んで、お勉強教えてよ。

パパの声をもう1度聴きたいよ。

あのね、パパ（後書き）

きつと琉はパパにあいたかったんでしょかね・・・。

そんな話自分は聴いてませんけどね。

これは物語というか、琉の独り言のようなものですね。

パパ、わけてあげるよ

パパはもういないんだ。

「お墓」という名前のおうちでねてるんだって。

パパはとってもハンサムで、かっこよくってモテモテだったのかなあ。

僕、パパに逢いたいよ。

パパは心臓の病気でいなくなっちゃったんだ。

パパは怖いもの知らずで強がりだったって。

プライドって何かわからないけど・・・「そのプライドもあったのかな。だからきつと病院に行きたがらなかったんだよ。」って

僕のママが言ったんだ。

パパはもつと早く病院に行けば助かったかもしれないんだ。

パパは、いなくなっちゃう半年くらい前から調子悪かったって。いとこの詩音お姉ちゃんが言ってたんだ。

食べたものを全部吐き出しちゃったりして大変だって話を聞いたって。

でもこういう話は大人は子供にしてくれないんだ。

大人は大事な話をしてくれないんだ。

だから僕も何回もママにどうしてパパはいなくなっちゃったのか聴いたのに・・・聴いたのに。

パパがいなくなったときは、僕はまだ2歳だったんだよ。

あと1ヶ月もすれば、僕だって3歳だったのに。

きつと僕の誕生日、パパ祝いたかったのかな・・・。

パパはまだ30歳だったんだ。

30歳って僕はいまの歳をあと5回分くらい生きなきゃいけないけど、よく考えたら短いけど長い。

パパはもつとここにいたかったのかな・・・。

それなら僕はパパに僕の残りの時間をちょっとだけ貸してあげてもいいよ。

でも、やっぱりパパは僕にちゃんと生きてほしいって思ってるよね。

嗚呼、パパ・・・

パパ、わけてあげるよ（後書き）

最後らへんがなんとも・・・小1っぽくないですが・・・

今とは違って感性豊かだった私は小2のとき（叔父が亡くなった時に）そうおもいながらお葬式の間ずっと泣いていました。

1歳しか歳は変わりませんが、男の子おさないですもんねえ。

パパ、いつかは僕もここに

パパのお葬式の時、僕は何にも知らずに「ばいばい」って言ったみたいなんだ。

よく覚えてないよ。

パパのお葬式なんか。

でも、みんなが言ってたんだ。

あのころの僕はきつとパパに「僕は平気だよ」って言いたかったのかな。

でも2歳の僕がそんなこと……。

パパが焼かれちゃう時、僕は興奮してたって。

どうしてだろう。

詩音お姉ちゃんを困らせたり、詩音お姉ちゃんの弟の礼智君に怒られたり……。

やっぱりパパがいなくなるのわかってたのかな。

僕はお墓の前で手を合わせながら、そんなことを考えていた。

パパ、僕もここに入るんだよね。

絶対に入るよね。

パパ・・・ああ、パパ

やっぱり僕はちょっとさみしいかもしれない。

もう慣れっただけど

でもさみしい・・・パパ

2人きりの生活なんていやだ！

僕はゲーム大好きなお兄ちゃんか、可愛いお姉ちゃんか、遊べる弟か、甘えん坊の妹がほしかったのに・・・

どうして僕には兄弟がいらないんだろう。

パパ、パパももうひとりっ子になったの？

パパにはちょっと厳しいお父さん、優しいお母さん、いつも遊んでくれたお兄ちゃんがいた。

なのに僕には厳しいお父さんも優しいお母さんもいつも遊んでくれるお兄ちゃんもいない。

僕に居るのは、いつも怒ってばかりでうるさいお母さんしかいないよ・・・。

ああ、パパさえ戻ってきてくれればちょっとはいいかもしれないのに。

パパ、僕にはいつになったら兄弟ができると思う？

・
・
・。

パパ
・
・
・

パパがいないとママが兄弟はできないって

どうしてなの？ねえ・・・教えてよ！パパ

パパ、いつかは僕もここに（後書き）

兄弟のいない琉は兄弟がほしいそうで・・・。

なるべく末っ子がよかったようですが、残念ながらもう兄弟は増えないし、一人っ子だし（言うまでもないですが長男ですよ）

やはり物事はうまくいかないものです

パパ、やっぱり寂しいの？

でもいいんだ。

僕にはいつになっても兄弟なんてできないんだよ。

もうできないんだよ。

30年じゃたりなかったんだよ。

あと10年もあれば僕には妹か弟ができたかもしれないけど。

でも今更後悔したって遅いんだ。

遅すぎる。

親戚のおばちゃんが言ってたの。

お寺に行ってパパに御経を読んでもとき、パパはお寺にきたよね。

悲しそうな顔からちよつとやわらかい表情だったんだってね。

そのおばちゃんね、パパが夢に出てきたって言うの。

パパ、寂しかったの？

パパのお墓の近くでじーじとばーばの家の犬がどっかいつちやった・

・・。

かなしいよ。2匹もいなくなるなんて。

1匹目のダニーはパパが拾ってきた犬

子犬の時、パパが部屋に隠していた柴犬と他の種類の犬との子供（雑種）だよ

吠えるのうるさかったけど、とっても元気いっぱいなのわんちゃんだった。

2匹目のいなこはパパが特に可愛がってた犬。

永ちゃん（他の犬の名前）から生まれたポインター、猟犬だったの。

「握手」ができるえらいわんちゃんだったよ。

パパはさびしかったんだね。

やっぱりさびしかったんだね。

お墓の中がいやなの？

そうだね、知ってる人僕のひいじーじしかいないもんね。

それとも僕やママやその他の人に会いたいの？

パパ、さびしかったら僕に会いに来てよ。

僕だってママと2人じゃさびしいよ

でも、赤ちゃんができたらママは僕に構ってくれないの？

やっぱり独りぼっちなの？

パパ、やっぱり寂しいの？（後書き）

はい。

ある意味すごいですね W

親戚のおばちゃんこと私の祖母 W W W

パパ、ありがとう

でもね、パパ。

僕はいまのままでもいいんだ。

いつかはパパとあえるんだもん。

絶対に・・・いや、僕が悪いことしなければ絶対にパパに会えるもん。

パパはもうここに姿も形も何もない。

けど、パパはとてもすてきなものを残してくれたんだ。

パパとママがいたから・・・

2人がラブラブになったから・・・

今、ここに僕がいるんだ。

パパ、パパのおかげで今ここに僕がいるんだ。

パパがいたから今ここでパパに伝えたい気持ちを伝えられたんだ。

パパには逢いたい。けど僕の中にはパパと同じ血が流れているんだ。

パパはA型

ママはB型

僕AB型だもんね。

パパ、ありがとう。ありがとう生きてるよ。

こんな僕でも本当に本当に大切にされてるよ

僕はパパとママの宝物なんだよ。

だからパパ、僕のことは心配しないで。

お願い。僕は体がちょっと弱いけど、パパのぶんまで生きるもん。

パパ、僕は31歳まで生きるもん

あとそれまでには25歳生きないといけないけどね。

パパ、改めて本当に本当にありがとう！

パパの子供で本当に良かったと思うよ。

パパもママもいい人だったみたいだし、今でもパパが大好きだよ！
写真を見てわかるんだ。

パパはやっぱり僕のこと愛してるって

最期に親愛なるパパへ・・・

34回目のお誕生日おめでとう。

2月28日には、僕のお誕生日もそっちで祝ってね。

パの子供 琉より

b
y
パ

パパ、ありがとう（後書き）

この小説はノンフィクションです。

実は私の叔父は、いとこが2歳のときに亡くなりました。

いとこはそれからまだ1度も口にしてはいたのですが、きっと父親に会いたいと思っているでしょう。

そんないとこの気持ちになってみました。

そして、9月8日は叔父の誕生日だったのですが・・・
家族全員忘れていたのかそんな話題が会話に入ってこなくてちよつと申し訳ないと思い書かせていただきました。

亡き叔父への誕生日プレゼントです。

叔父のことは叔父がいなくなってから1日もわすれたことはありません。

深く考えるたびに涙がこぼれてきます。

でも叔父も楽になっているでしょうし、悲しむのは失礼ですよね・・・。

たーぼへ

本当に誕生日忘れてごめんなさい。

私は女なので、同じお墓には入れないだろうけどあの世でまた逢いたいです。

私が逝ったときには、ちゃんと迎えに来てくださいね。

最低でも20年ほどもう会うことはないでしょう。
それまで体に気を付けて。
そして幸せに・・・

b y めいの杏より

よかったら感想、アドバイスなどしてくれると助かります

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0332i/>

パパ

2010年11月6日13時38分発行